

証券コード：6928



# 第50期 中間報告書

2015年4月1日～2015年9月30日



# 株主の皆様へ



代表取締役社長

**武内 延公**

株主の皆様におかれましては、格別なるご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。第50期中間報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

エノモトグループは「経営の中心は人であり、健全なものづくりを通じて、豊かな社会の実現に貢献する」という志を経営理念とし、1962年（昭和37年）の創業以来、多くのプレス加工に関する新技術を開発し、打ち抜き加工・曲げ加工・絞り加工・モールド加工等広範囲のジャンルの金型技術を確立し、また、日進月歩で軽薄短小化・高機能化・多機能化する市場ニーズに応えるべく、金属とプラスチックの超微細複合加工技術を確立し、日本のものづくりに貢献して参りました。

その時代で求められる市場ニーズにエノモト独自の技術力を駆使し迅速に対応を図ってきたことによ

り、これまでにIC・トランジスタ用リードフレームをはじめ、リレー用部品、オプト用リードフレーム及びマイクロピッチコネクタ用部品へとその事業領域を順次拡大して参りました。

特に地球温暖化防止に貢献する省エネルギー関連製品として、急速に普及が進んでいるLED（発光ダイオード）に代表されるオプト用リードフレームをはじめ、ユビキタス時代の代表的なハードウェアであるスマートフォン等のIT機器に搭載されているマイクロピッチコネクタ用部品は、今後の社会の発展を支えるキーテクノロジーの一つであると自負しております。また、それらの製品を世界中の主要メー

## 財務ハイライト（連結）

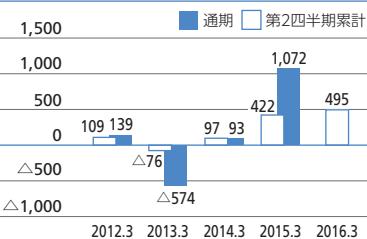
### 売上高

（単位：百万円）



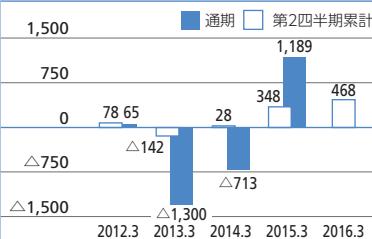
### 経常損益

（単位：百万円）



### 親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益

（単位：百万円）



カーに供給していることにより、当社グループが今後とも豊かな社会を実現するために必要な存在であり続けることができるものと信じております。

当社グループは現状に甘んずることなく、将来のユーザーニーズ及び地域的需要に対応すべく、積極的に最適生産体制の構築を進め、市場競争力の強化にも努めて参りました。現在、国内は本社（塩山、上野原）、津軽、岩手の計4工場体制、海外においてはフィリピン（カビテ・セブ）及び中国の計3工場の体制をとっており、グローバルな供給体制に対応できるアジアでも有数の金属と樹脂の精密複合加工メーカーとして確固たる地位を確立しております。

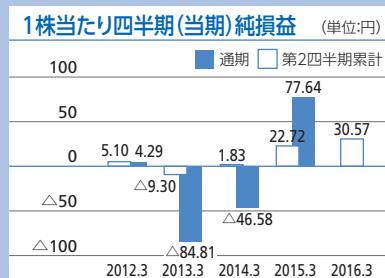
当社グループを取り巻く事業環境は、政府主導の景気回復策の効果による緩やかな回復基調を維持しておりますが、原材料価格や為替の変動、市場競争の激化による販売価格の下落、最終製品の販売状況による受注の急激な増減、中国経済の減速による需要の低下といった懸念事項が存在しており、今後の予測が非常に困難な情勢となっております。当社グループといたしましては、これらの事業リスクを十分に理解・考慮しつつ、成長性の高い分野における高付加価値製品に対し、積極的な事業展開を推進して参ります。

また、当社グループが対処すべき課題として、中期的な経営方針として掲げた項目の実現のために、特に年度ごとに経営重点課題を設定して全社的な取り組みを推進しております。中期経営方針の5年目にあたる2015年度の経営重点テーマには「“楽”への挑戦」を掲げ、すべての旧態依然とした業務を徹底的に見直し、より効率的＝「楽」に業務を遂行し無駄な費用や時間の浪費を削減することで、生産効率・品質管理の改善を図り、従業員が今まで以上にものづくりの「楽しさ」を感じられる、更に上のレベルの意識を持った企業体質への転換を図ります。

なお、第50期中間配当につきましては、現状の財務状況を鑑み、前期に引き続き誠に遺憾ながら、当初予想のとおり無配とさせていただくこととなりましたことを、株主の皆様へ深くお詫びを申し上げますとともに、早期に復配できるよう、より一層の経営改善に努めて参ります。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社グループへのご理解と、今後の事業展開に向けた長期的なご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2015年12月



# 事業別の概況

## 第2四半期連結累計期間の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気回復軌道への緩やかな復帰は持続しているものの、個人消費や輸出の低迷などによる市場の在庫調整の遅れが、生産を抑制する局面となっております。

海外においては、アメリカ経済は雇用環境の改善傾向が続き、住宅を含む個人消費について堅調な回復基調を示しておりますが、ドル高と新興国需要の減速による輸出の伸び悩みから、製造業の低迷が鮮明になりつつあります。ヨーロッパ経済ではドイツやイギリスが引き続き堅調な成長を見せており、スペインなどでも雇用環境の改善が見られていることから、緩やかな景気回復基調にあります。中国経済においては、資源国・新興国の景気減速による輸出の鈍化から、回復の目途が立たない状況となっております。

当社グループの属する電子部品業界におきましては、自動車部品の電装化率の上昇を追い風に、大幅な受注増を期待しておりましたが、自動車の販売台数の伸び悩みにより、自動車向け部品の受注は、当社の予想値に達しませんでした。また、ウェアラブル端末やハイエンドスマートフォン向けの部品については、引き続き好調を維持しておりますが、新モデルの販売台数の予測が難しく、今後の動向について注視が必要な状況です。

このような状況下、当社グループは、徹底的な業務の見直しによる効率化と更なる技術の研鑽により、高付加価値製品の開発に積極的な投資を進めて参りました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は96億7千5百万円（前年同四半期比8.9%増）となりました。また、営業利益は4億8千4百万円（同

20.4%増）、経常利益は4億9千5百万円（同17.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億6千8百万円（同34.6%増）となりました。

## 通期の見通し

第3四半期以降の見通しにつきましては、原材料価格や為替の変動、最終製品の販売状況による受注の急激な増減、中国経済の減速による需要の低下、自動車需要の低調といった懸念材料が存在しておりますが、受注環境に大きな変化はないものと見込んでおります。

当社グループは品質改善活動や製造コスト低減の推進をはじめ、当社の強みである金属と樹脂の精密複合加工技術をベースに新規の顧客開拓を積極的に行うなど、全社一丸となって売上及び収益力の向上に努めて参ります。

## 通期の連結業績予想

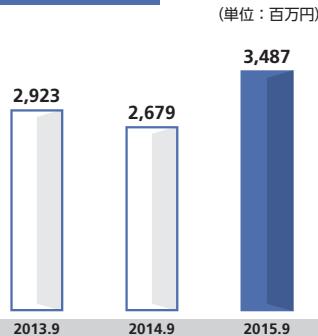
当第2四半期連結累計期間の業績は概ね予定どおりに推移しており、通期の見通しにつきましては当初予想のとおり、売上高は200億円（前連結会計年度比5.8%増）、営業利益11億円、経常利益10億円、親会社株主に帰属する当期純利益8億円を見込んでおります。

売上高	20,000百万円
営業利益	1,100百万円
経常利益	1,000百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	800百万円

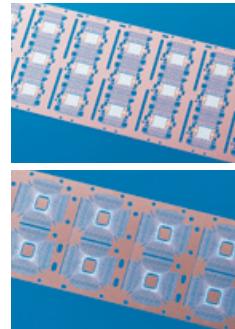
## IC・トランジスタ用リードフレーム

売上高 34億87百万円 (前年同期比 30.1%増)

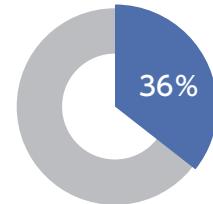
### 売上高推移



当製品群は、自動車向け、民生用機器向けが主なものであります。自動車部品の電装化率の上昇により、受注が増加いたしました。その結果、当製品群の売上高は34億8千7百万円（前年同四半期比30.1%増）となりました。



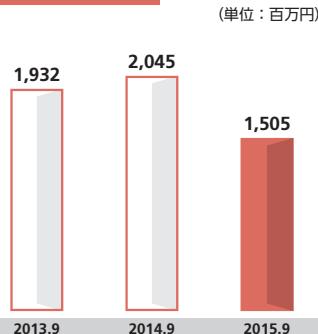
売上高比率



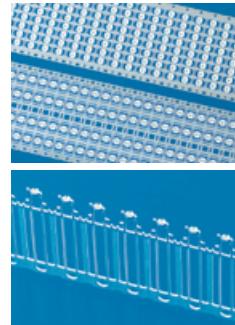
## オプト用リードフレーム

売上高 15億5百万円 (前年同期比 26.4%減)

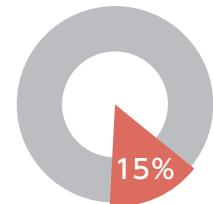
### 売上高推移



当製品群は、LED用リードフレームが主なものであります。中国市場向けの大型ディスプレイ用部品の受注が、大幅に予測を下回りました。その結果、当製品群の売上高は15億5百万円（同26.4%減）となりました。



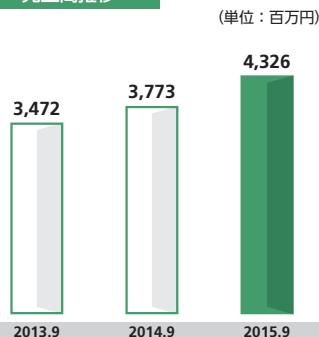
売上高比率



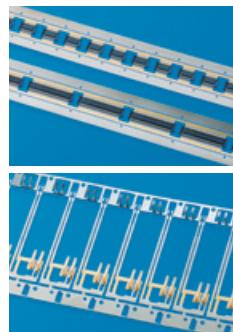
### コネクタ用部品

売上高 43億26百万円 (前年同期比 14.7%増)

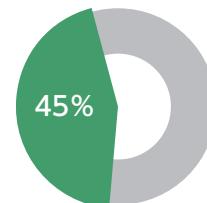
#### 売上高推移



当製品群は、スマートフォン向け、デジタル家電向けが主なものであります。特に、ハイエンドスマートフォン向け部品の受注が好調に推移しております。その結果、当製品群の売上高は43億2千6百万円 (同14.7%増) となりました。



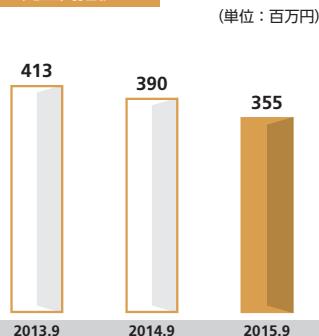
#### 売上高比率



### その他

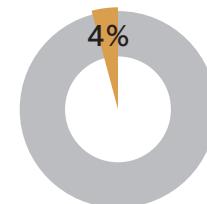
売上高 3億55百万円 (前年同期比 8.9%減)

#### 売上高推移

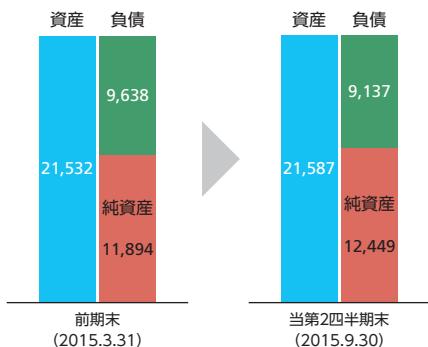


その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は3億5千5百万円 (同8.9%減) となりました。

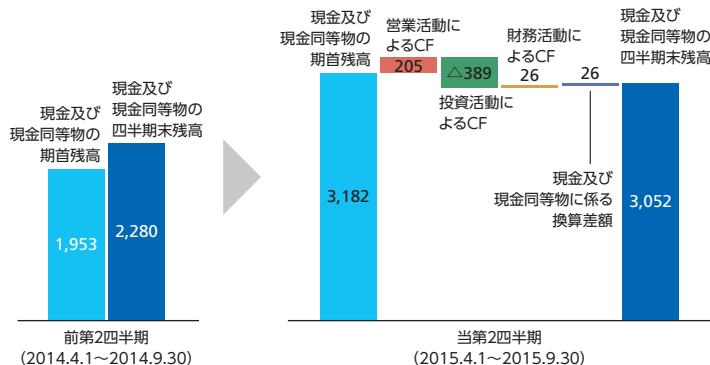
#### 売上高比率



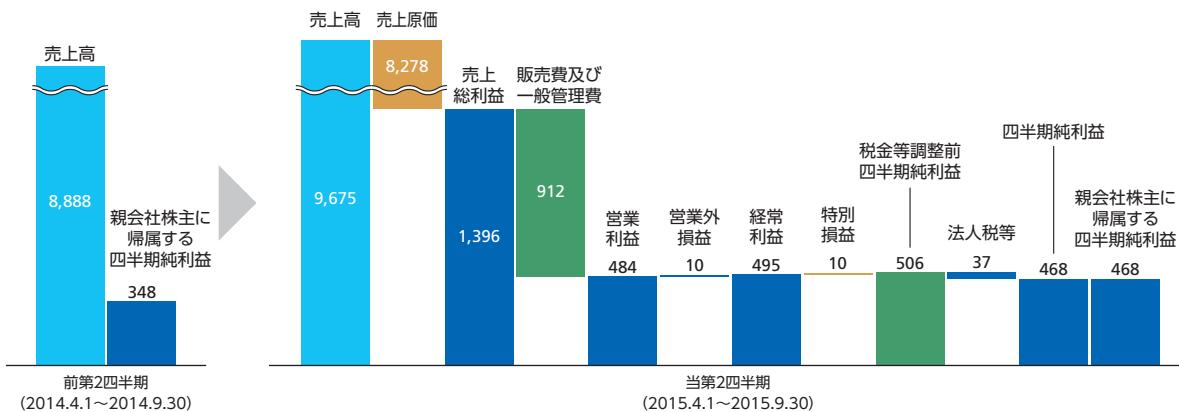
## ■ 連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



## ■ 連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



### POINT!

#### (連結貸借対照表)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前期に比べ5千4百万円増加し、215億8千7百万円となりました。流動資産は、売掛金及び棚卸資産の増加により前期に比べ2千4百万円増加の101億8千3百万円となり、固定資産は、遊休不動産の売却及び退職給付信託の解約により減少したものの、有形固定資産の新規取得により増加したため、前期に比べ2千9百万円増加の114億3百万円となりました。

一方、負債合計は、前期に比べ5億1百万円減少し、91億3千7百万円となりました。これは主に仕入債務及び税金に係る未払の減少と借入金増加によるものです。

また、純資産は利益剰余金の増加により124億4千9百万円となりました。この結果、自己資本比率は、57.7%となりました。

#### (連結キャッシュ・フロー計算書)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前第2四半期連結累計期間末に比べ7億7千1百万円増加し、当第2四半期連結累計期間末には30億5千2百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は2億5百万円(前年同四半期比29.5%減)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益5億6百万円、減価償却費4億8千1百万円及び退職給付に係る資産の減少2億7百万円による資金の増加、仕入債務の減少5億7千4百万円及び法人税等の支払額1億4千3百万円による資金の減少であります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は3億8千9百万円(同93.9%増)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出4億7千4百万円、有形固定資産の売却による収入1億6百万円でありました。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は2千6百万円(同90.8%減)となりました。これは主に短期借入金2億5千万円の純増額及び長期借入金2億1千万円の返済によるものであります。

### ■株式の状況

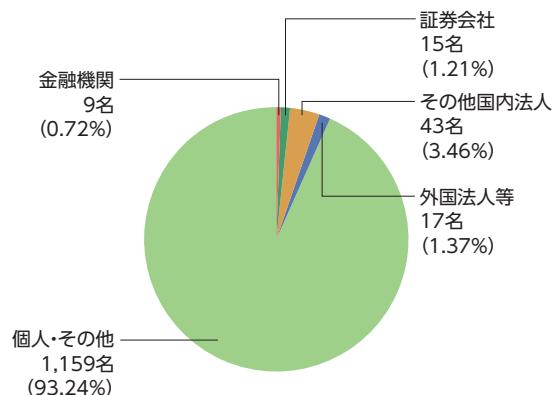
発行可能株式総数 37,600,000株  
 発行済株式の総数 15,348,407株  
 株主数 1,461名

### 大株主

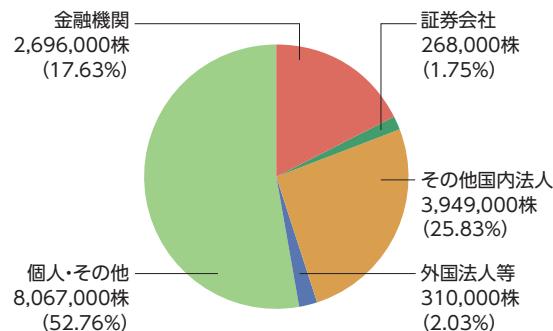
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社エノモト興産	2,000	13.0
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,627	10.6
有限会社エムエヌ企画	1,098	7.1
榎本保雄	690	4.5
株式会社山梨中央銀行	453	2.9
エノモト従業員持株会	408	2.6
榎本信雄	323	2.1
櫻井宣男	234	1.5
榎本貴信	224	1.4
櫻井妙子	220	1.4
榎本寿子	220	1.4

(注) 持株比率は自己株式(25,584株)を控除して計算しております。

### 所有者別株主数比率



### 所有者別単元株式数比率



### ■会社概要 (2015年9月30日現在)

社名	株式会社エノモト
本社	山梨県上野原市上野原8154番地19 TEL 0554 (62) 5111
創業	1962年7月1日
資本金	4,149,472千円
従業員数	423名
事業内容	各種電子部品用プレス加工品及び 射出成形加工品の製造販売
子会社	ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc. ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd. ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.

### ■役員 (2015年9月30日現在)

代表取締役社長	武内延公	常勤監査役(社外)	土屋義夫
常務取締役	伊藤一恵	監査役(社外)	平井雅規
取締役	櫻井宣男	監査役	佐藤益男
取締役	小澤志郎		
取締役	白鳥誉		
取締役	成田幸則		
取締役(社外)	倉田明保		

### ■国内拠点

本社  
〒409-0198 山梨県上野原市上野原8154番地19  
TEL 0554 (62) 5111 FAX 0554 (63) 4193

営業部  
〒409-0198 山梨県上野原市上野原8154番地19  
TEL 0554 (62) 5112 FAX 0554 (62) 4319

本社工場  
〒404-0036 山梨県甲州市塩山熊野666番地  
TEL 0553 (32) 1111 FAX 0553 (32) 1159  
〒409-0198 山梨県上野原市上野原8154番地19  
TEL 0554 (62) 5115 FAX 0554 (62) 4089

津軽工場  
〒037-0017 青森県五所川原市大字漆川字玉椿191番地1  
TEL 0173 (33) 0570 FAX 0173 (34) 5206

岩手工場  
〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌第10地割39番地  
TEL 0193 (42) 8511 FAX 0193 (42) 8513

ホームページのご案内

<http://www.enomoto.co.jp>

最新の当社IR情報等をご覧ください。





# 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日  
定時株主総会 毎年6月下旬  
基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日  
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
特別口座の  
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の  
本店及び全国各支店で行っております。

- ・住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払いについて  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・「配当金計算書」について  
配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。  
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。  
\*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

## 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。  
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 6928

いいかぶ

検索



空メールにより  
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)  
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で簿籍(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エーツーメディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

ENOMOTO Co.,Ltd.



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

